



株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

情熱とやりがい

第16号
2025
Autumn

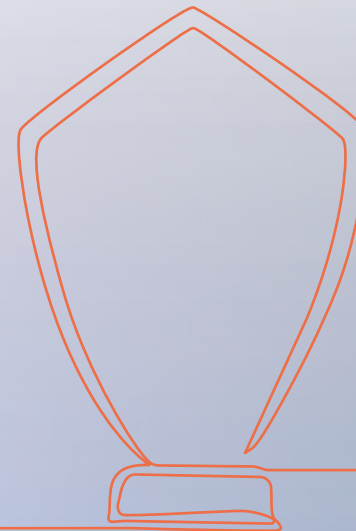
OC最前線 外部表彰プロジェクト 顧客と社会に選ばれる 誇れる仕事

情熱座談会

～OCで拓く未来～
キャリア入社組の本音に迫る！

チャレンジャー

はたらく社員の笑顔
成長のキセキ
Column



顧客と社会に選ばれる誇れる仕事

建設コンサルタント業界には、国や地方自治体、学会などの外部機関から受けるさまざまな表彰や賞が存在しています。

本特集では、これらの表彰や賞を受けた6つのプロジェクトを紹介。

情熱を持った当社の技術者たちがどのような想いで臨み、どのような点が外部から評価されたのかを紐解きます。

全国に拠点を有する当社は、社会の安全安心な暮らしを支える土木インフラの計画・設計に、

日々社員が一丸となって取り組んでいます。

そして、その結果として私たちの仕事が、国や地方自治体、学協会など外部機関から高く評価され、

表彰という形でプロジェクトの成果や社会貢献性が認められることがあります。

これらの表彰は技術者一人ひとりの誇りであり、次なる挑戦への原動力にもなっています。

今回ご紹介するのは、右表に示すような外部機関から表彰されたプロジェクトです。

滞りのない進行、景観を意識した構造物のデザイン性、これまでにない革新的な取組み……など、

各賞で評価された点はさまざまです。

しかし、そのどれにも共通しているのは、「発注者や利用者、地域住民の想いを反映し、

社会的な価値を最大限に高めたプロジェクトである」こと。

つまり、表彰は単なる仕事の「結果」ではなく、社会から評価されていることの「証」なのです。

当社はこれからも、技術者の情熱と挑戦を誇りに、社会が抱える課題に対して期待を超える成果を追求し続けます。

主な外部表彰一覧

表彰元・団体	主な表彰／賞
国土交通省	建設事業関係功労者等国土交通大臣表彰
	優秀施工者国土交通大臣顕彰
	若手技術者表彰
	インフラメンテナンス大賞
地方整備局	インフラDX大賞
	局長表彰
	事務所長表彰
地方公共団体 (都道府県)	知事表彰／市長表彰
公益社団法人 土木学会	田中賞
	技術賞
	デザイン賞
公益財団法人 日本デザイン振興会	グッドデザイン賞
一般社団法人 レジリエンスジャパン推進協議会	ジャパン・レジリエンス・アワード (強化大賞)
一般社団法人 日本建設業連合会 (日建連)	日建連表彰 (土木賞)
一般社団法人 全国建設業協会 (全建)	全建賞

Contents

01 OC最前線 外部表彰プロジェクト 顧客と社会に選ばれる誇れる仕事

- 09 チャレンジャー
- 観光庁で得た知見と人脈を生かしOCの観光分野をさらに強化
 - 前職で磨いた技術で挑む調節池の再整備事業
 - 3D都市モデル「PLATEAU」で見せる、未来の可能性
 - 世界に広がる日本の技術注目のグローバルサウス事業

13 情熱座談会 ～OCで拓く未来～ キャリア入社組の本音に迫る！

17 はたらく社員の笑顔

- 19 成長のキセキ
- 技術士試験に初回受験で合格 資質能力の向上でより良い成果へ
 - 謎解きのように仕事を楽しむ新入社員とコーチャー
 - 建設コンサルタント業務研究発表会にて優秀賞を受賞
 - 若手中心の取組みでエンゲージメントを向上

21 Column OC社員、会社の出来事を語る！

- インド現地レポート
- Office Cloud 9の運営を通じて
- 健康管理について
- 流域治水オフィシャルサポーター認定
- クラブ活動をとおして得られたもの (関西支社野球部)
- 「リフレッシュ休暇 (勤続10年)」について

日本空間デザイン賞2024 2024年度グッドデザイン賞 第5回グリーンインフラ大賞 令和6年度土地活用モデル大賞 ウッドデザイン賞2024

国内初となる仕組みを導入し、市道と公園を一体化させる革新的なまちづくりを実現

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト

受賞のポイント

- 地元民間団体の寄付金をもとに、国の補助金と組み合わせてプロジェクトを実施
- まちづくり分野では国内初となる成果連動型業務委託（SIB）を導入
- 地域住民や市民団体を巻き込み、完成後の維持管理や活用も地域主体で推進



群馬県前橋市の「馬場川通りアーバンデザインプロジェクト」は、市の都市再生プランにおけるモデル事業として発足しました。この事業では、資金提供者から調達された資金をもとに事業者がサービスを生み出し、客観的な評価に基づいた報酬を支払うSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）※を活用。柵で囲まれ親水性が低かった馬場川を、人と水との関係性を再構築する空間へ改修しました。当社は基本設計・実施設計および工事監理支援を担当し、他社と協業しながら馬場川沿いを整備。柵の撤去に伴う安全性の確保や、歩車道

のフラット化に伴う道路高の調整を行ったほか、多様な関係者との連携・調整を円滑に進め、プロジェクト全体の推進に貢献しました。その結果これらの革新的な取組みが評価され、本プロジェクトは「日本空間デザイン賞2024」や「2024年度グッドデザイン賞」「第5回グリーンインフラ大賞」「令和6年度土地活用モデル大賞」など、さまざまな賞を受賞しました。このような先進的な事例が全国に広まることで、ほか地域でも既存の市街地のにぎわいや回遊性の創出が期待されています。

市民に愛される空間づくりが自身の成長に

入社直後に参加したこともあり、設計業務は上司や先輩の教えを受けながら一つひとつを学んでいきました。また、子会社であるオリエンタル群馬での研修を行いながら携わった工事管理支援業務では、設計図が現実の構造物へと形を変えていく様子を目の当たりにし、自身の業務の重要性を実感することができました。今回さまざまな賞をいただき、初の設計業務で多くの苦労があった分、社会的に評価されたことを素直に嬉しく感じています。将来はプロジェクトをまとめるリーダーとして、このような新しいアイデアを取り入れた公共空間づくりに挑戦したいです。

浦西 真維

関東支社
都市政策・デザイン部 技師
高知工科大学大学院了

2021年に入社。当初は景観計画や環境デザインに関する計画業務を中心に従事し、本プロジェクトにも新入社員研修後から参加した。近年は主に公園の基本設計から実施設計業務に携わっている。



中部地方整備局 優良業務表彰（局長表彰）

AIカメラの解析で交通課題を明らかにし、観光地の魅力を向上

令和6年度飛騨地域交通円滑化検討業務

受賞のポイント

- 観光渋滞の緩和に向け、担当者が密に連携し滞りなく業務を遂行
- 観光渋滞対策として注力している駐車場事前予約の効果検証や交通実態の把握にAIカメラを活用
- 交通実態の分析結果や駐車場利用者を対象に行ったアンケート結果から、さらなる渋滞緩和のための課題を明確化



岐阜県高山市の中心部は古い町並みなど多くの観光資源がある一方、観光繁忙期には中心部付近の駐車場を探し、周辺の道路をうろつく車両が渋滞を助長しています。当社チームは市内8か所にAIカメラを、11か所の市営駐車場入口にビデオカメラを設置し、駐車場を利用した車両が入庫するまでに利用した経路や所要時間などを分析しました。その結果、駐車場事前予約を利用した車両は利用していない車両と比較して、駐車までの所要時間が大幅に短縮され、時間信頼性も向上していることや、中心部から離れた駐車場を利用した方が駐

車までの所要時間を短縮でき、観光に充てられる時間が増加することがわかりました。また次年度以降の渋滞対策として、駐車場事前予約の認知拡大や、解析データを活用した交通・渋滞情報を利用者に広く発信することの重要性を示しました。この取組みが評価され、本プロジェクトは国土交通省中部地方整備局が発注した業務のうち、特に優秀な功績を収めた企業に贈られる「中部地方整備局優良業務表彰（局長表彰）」に選ばれました。今後も観光繁忙期におけるデータの収集と活用を継続し、渋滞解消に向けた施策を推進します。

受賞を次のプロジェクトの糧に

本プロジェクトは事務所長の期待も大きく、まだまだ渋滞解消に向けた課題が残っているため、「今回の受賞はあくまで通過点であり、今後も発注者の期待に応え続けなければいけない」と身が引き締まる思いです。受賞にあたっては、発注者のニーズを汲み取りながら社内連携して業務を遂行できたこと、そしてAIカメラの解析結果やアンケート調査から、駐車場事前予約の効果や今後の課題を明らかにできたことが評価されたのだと思います。この経験をバネに、今後は管理技術者として国交省業務を受注し、主体的に社会貢献を果たしていきたいです。

佐々木 啓太

中部支社
交通政策部 技術主査
名古屋工業大学大学院了

2019年に入社し、主に交通安全対策や渋滞対策の検討業務、自動運転技術に関する業務などに従事。博士号取得に向け、2024年からは業務の傍ら、名古屋工業大学大学院博士後期課程に在学している。



⚙️ ジャパン・レジリエンス・アワード (強靱化大賞) 2025 優秀賞

地域強靱化に対する画期的な取組みを災害時の行動につなげる

オールハザード対応BCP策定のための全庁職員説明会の実施

受賞のポイント

- 全庁説明会の実施により、八丈町の職員に対して災害の「自分事化」を図り、BCPの重要性を共有
- 全庁説明会において有識者講演や3Dアイランドマップを活用した被災動画の上映を実施
- 全庁説明会の実施後に非常時の優先業務の洗い出しを行うことで、より現実的な防災計画を策定



風水害、地震、津波、火山災害など多岐にわたる自然災害リスクを抱えている東京都八丈町では、多様な災害に対応できるオールハザード対応BCP(業務継続計画)の策定が求められています。このBCP策定に向け、本プロジェクトでは自治体の職員に加え、町内の病院や消防本部の職員などを対象とした説明会を開催しました。説明会では、他案件でもご協力いただいている学識者の方を招いた講演や、三次元データを用いた「3Dアイランドマップ」を活用した動画の上映を実施し、職員一人ひとりの防災意識を向上させました。

また、この取組みは、強靱な国づくりや地域づくりに資する活動や、技術開発に取り組む企業・団体を表彰する「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2025」の優秀賞を受賞しました。BCPの策定においては、第一に職員へ調査票を配布する手法が一般的な中、「全庁説明会」で防災への意識を高め、その上で非常時の優先業務を洗い出す今回の取組みが革新的かつ効果的であると評価されました。当社は国土や地域の強靱化に対し、引き続きDXを活用しながらハード・ソフトの両面で支援を行ってまいります。

防災意識の向上の鍵は「自分事化」にあり

八丈町の防災計画を担う「八丈町業務継続計画策定業務委託」の担当者として、計画の立案や全庁説明会の補助を行いました。とても印象に残っているのは、風水害や火山被害を想定した動画に対する、職員の方々のリアルな反応です。災害が自分たちの身に起こりうることだと認識していただくことができ、自身の業務の重要性を感じました。災害が激甚化する昨今、国民の一人ひとりが災害を「自分事」として捉える必要があります。最新の技術を駆使し、今後も広い地域であらゆる主体が一体となった防災体制の構築に貢献していきたいです。

遠藤 彩夏

関東支社
河川砂防・港湾部 技師
東京都立大学卒

2018年の入社以来、防災チームに所属。防災関連の計画作成・改定業務を基本としつつ、近年は流域治水やDXを推進する業務にも従事し、あらゆる災害に対してマルチに対応できる技術者を目指す。



⚙️ 2024年度 グッドデザイン賞

こだわり抜いた空間デザインが、地域活性化の一役を担う

体験型研修宿泊施設「そらすな」の整備および運営管理

受賞のポイント

- 地域の環境資源と人的資源を連携させた、地域活性化の拠点となる体験型研修宿泊施設を整備
- 空間デザインで、地方都市の地域課題を解決するための「稼ぐ公共」を実現
- 小さな都市公園を経済活動の場として活用し、官民の連携により地方都市の未来を創造



福岡県行橋市の長井浜公園内に開業した体験型研修宿泊施設「そらすな」が、2024年度のグッドデザイン賞を受賞しました。この施設は、長井浜公園の指定管理者である当社が事業主となり、公園内の回遊性向上と交流促進を目的に、地域活性化の拠点として整備したものです。中でも特徴的なのは、海との一体感を醸成するため、全室で玄関を設けず、テラスから出入りするという構造です。そのほか、一部客室にはサウナや暖炉などの設備を備えており、館内には地域の食材を楽しむレストランを併設しています。

今回の受賞においては、地方の小規模な都市公園で官民連携を活用した点や、公園が建築を包み込んでいるようなオリジナルの建築デザインを実現した点が、「小規模な都市公園における建築デザインのあり方に一石を投じている」と高く評価されました。実際に宿泊された方々にも、「自然を感じながら心地よい時間を過ごせた」という感想をいただいています。当社は、このプロジェクトを地方都市の課題を解決する「稼ぐ公共」モデルと位置づけ、全国へ波及させることを目指しています。

「そらすな」を地域の拠点となる施設に

行橋市全体のエリアマネージャーとして、近隣の行橋総合公園とそらすなを含む長井浜公園の運営管理を担当しています。特にそらすなは、当社初の本格的な宿泊施設の整備ということで、何から始めるか調べるところからのスタートでした。運営開始後は売り上げが伸び悩むなど苦労もありましたが、そんな中、今回グッドデザイン賞を受賞することができ、喜びと安堵の気持ちでいっぱいです。今後は広報活動に注力することで、そらすなの認知度と集客率をさらに向上させ、地元の方に「あなたたちのおかげで地域が変わった」と言われるような地域経営を実現したいです。

土井 雅晴

関東支社
地域活性化推進部 次長
群馬大学卒

2005年に入社し、地域計画・まちづくりに関する業務に従事。その後、日本みち研究所への出向を経て、現在は福岡県行橋市の地域活性化をはじめとする地域経営事業や、官民連携プロジェクトに携わる。



令和5年度 国土技術政策 総合研究所優秀技術者表彰

海外の技術の導入が、
道路舗装の発展におけ
る大きなヒントに

令和5年度舗装の定点調査等
業務

受賞のポイント

- 発注者に対して調査・検討結果、進捗などを適宜報告することで、良好な関係を構築
- 業務関係者と密にコミュニケーションを取り、特殊な業務を円滑に進行
- 民地借用の調整や現場作業など、当初設計にはなかった発注者の要望に対して臨機応変に対応



国土交通省が目指す「道路舗装のライフサイクルコスト低減」実現に向け、当社は令和5年度、国道の舗装における定点調査の実施と、海外で採用されている「促進載荷試験」の適応性を検討しました。定点調査では、研究に必要なデータを取得するため、国道の複数区間で路面性状調査やたわみ量調査などを実施。促進載荷試験の適応性検討では、「交通荷重による長期的な舗装の状態変化」を短期間で再現し、道路舗装の耐久性評価を効率良く実施できるよう、海外の試験装置メーカーへのヒアリングや調査を行いました。

そして、本プロジェクトに携わった布広さんが「令和5年度業務のうち、意欲ある取組みを行った優れた技術者」として、国土技術政策総合研究所の「優秀技術者表彰」を受けました。今回の表彰に際しては、定点調査を行う地点の道路管理者や警察との調整はもちろん、発注者の要望に即した的確な対応や、海外メーカーとのやり取りなど、国内の道路舗装をさらに発展させるための円滑な取組みが評価されました。今後も、世界各国の有用な試験や研究結果を活用しながら、国内インフラの合理的な維持管理に貢献していきます。

入社一年目の経験を今後のキャリアに生かす

この度は身に余る光栄な賞をいただき、大変嬉しく思っています。入社1年目での受賞ということもあり、最初は「間違いではないか」と思いましたが、受賞理由を聞き嬉しく思いました。業務では関係機関との調整や、海外メーカー担当者との英語でのやり取りなど、慣れないことも多く苦労もありましたが、上司や周囲の方々にご協力いただいたおかげで乗り越えることができました。今回の受賞は、日々の業務に真摯に向き合った結果だと感じています。この経験を活かし、今後は海外のプロジェクトにも積極的にチャレンジしてみたいと考えています。

布広 祥平

関東支社
アセットマネジメント
推進部 技師
室蘭工業大学大学院



2023年に入社後、道路チームとして舗装の調査業務や道路管理のDX検討業務などに携わる。将来的にはインフラ・施設全般のマネジメントに関わりながら、持続可能な社会インフラの維持管理への貢献を目指す。

2024年度土木学会景観・ デザイン委員会デザイン賞

周辺地域を含めた観光
の可能性を広げる新た
なダム管理用橋梁

ハッ場ダム
(担当：予備設計および詳細設計)

受賞のポイント

- ダムを中心とした水源地域のトータルデザインの実現
- ダム近辺の資料館や施設ガイドなど、ソフト面に対するデザインの充実性
- 周遊観光と地域の活性化に対するハッ場ダムの貢献



群馬県吾妻郡の新たな観光資源として注目される、ハッ場ダムの左岸と右岸をつなぐ「ハッ場もみじ橋」の予備設計と詳細設計を実施しました。ダムの建設地には名勝吾妻峡があり、新緑や紅葉の時期には多くの観光客が訪れます。このことを踏まえ、文化庁との協議を重ねながら、地形や景観など吾妻峡への影響を配慮した設計を実現しました。その結果、ダムの管理橋としては珍しいフィレンディール形式を採用。橋の上からはダムの放流を眺められるなど、訪れた方々へ新たな価値を提供しています。

今回受賞した土木学会デザイン賞では、他社と連携しながら、ハッ場ダムを中心とした水源地域のトータルデザインを実現した点が評価されました。また、周辺地域では現在もダムカードの配布やマスコットキャラクターの活用により、地域全体の活性化を図っています。さらには、ふるさと納税の返礼品としてダムの放流を間近で見られるイベントを開催するなど、今後もさまざまな施策が実施される予定です。当社では、まちづくりや観光資源開発といった観点から、引き続き長期的な効果を踏まえた構造物の設計を行ってまいります。

外部評価でつけた自信を今後の案件に生かす

ダムに架かる橋梁の設計は初めての経験で、ダムの構造を理解することに苦労しました。また、景観を重視した設計を実現するために、学識経験者や他社との調整、議論を重ね、ときには社内では3Dモデルを作成するなど、多くの人の助けを借りながら取り組みました。2018年設計業務での事務所長表彰に続き、今回新たに評価をいただけたことで、改めて達成感を感じています。私の今後の目標は、他の地域でも観光客や地域の方々に喜んでいただけるような橋を設計すること。その結果、もうひとつの土木学会賞である田中賞も受賞できたら嬉しいです。

竹内 彩

関東支社
構造部 副主幹
福岡大学卒



2010年に入社し、主に新設橋梁や土工構造物の計画・設計業務に従事。2021年から2年間は国立研究開発法人土木研究所に出向し、設計基準に関する研究に携わる。2023年に構造部に帰任。

地域経営推進

観光庁で得た知見と人脈を生かし 〇〇の観光分野をさらに強化

〇〇の観光分野における価値を高めるべく、約3年間、観光庁へ出向していた湯舟さん。経験を重ね帰任した彼に、出向で得られたものと、それを生かし取り組んだ茨城県の事業について語ってもらいました。

湯舟 佑樹

関東支社 地域活性化推進部
首都大学東京大学院（現：東京都立大学大学院）了

2017年に入社し、観光チームに所属。関東および沖縄県の観光業務を担当。2021年から3年間、観光庁に出向し、コロナ禍の観光政策などに携わる。帰任後、観光分野の業務の多角化に向け取り組んでいる。

〇〇は2019年から観光庁への出向者を派遣している。湯舟はその2代目として、2021年4月から3年間、観光庁へ出向した。関東支社観光チームとしては、今後も観光関連の業務を受注していく中で、国策としての観光政策を理解し、建設コンサルタントとしての強みを生かした業務受注が必要であった。こうした背景もあり、観光政策に関する知識を深め、必要なコネクションを築くことが湯舟に求められた。

「出向後、観光地域振興課に配属された。この課は、観光地域づくり法人（DMO）の登録や支援、国際的なスノーリゾートの形成、東北の震災復興支援などを所掌している。この課で、国の政策等が記載されている白書や・〇〇計画などの文案協議や国会対応、最終年には財務省との予算協議等にも関わり、幅広い経験を積みました。コロナ禍ではありましたが、庁内での交友関係を広げるために、他課の担当者などとは可能な限り対面での調整を心掛け、他の企業からの出向者などとの新たなつながりを持つことができました」



観光地域振興課における職員同志の交流会の様子。旅行会社や鉄道関連の企業など、さまざまな領域から出向者が集まる。

湯舟は帰任後、観光庁や都道府県の観光関連事業に取り組んだ。

「自分が茨城県の業務に取り組む中で、観光庁での経験を生かしたことがありました。茨城県ではホテルの民間投資が低調であり、その課題感を示すために一般的統計以外にも、観光庁がコロナ禍に行っていた宿泊施設や観光地の面的整備に関する補助金の採択件数を活用しました。他の都道府県と比較し、採択数が少ないことを示すことで、課題感を共有することができました。加えて、出向時代に培った専門家や有識者とのコネクションを活用し、県の観光政策に関するヒアリングを行い、具体的な可能性を探りました。観光庁でのさまざまな経験があったからこそ、プロジェクトを円滑に進めることができたと思います」

観光チームは今後、さらに業務領域を拡大していくという。

「まずは、現在受注している国や自治体などの業務を確実に遂行し、観光分野での〇〇の価値を高めていきます。将来的には、国・都道府県・市区町村の三階層でバランスよく業務を受注し、観光産業に関する多面的かつ深い知識を有する業務体制をさらに強固にできればと思います。加えて、総合建設コンサルタントとしての強みを生かし他部署とも連携。観光地における防災計画の策定や、河川空間のにぎわい創出など、複合的な業務にも挑戦していきたいです」

これからは、チームを強化するために観光に精通した人材の確保も進めていくという。〇〇の観光分野のさらなる成長と飛躍が期待される。

流域管理・防災

前職で磨いた技術で挑む 調節池の再整備事業

豪雨時の洪水被害を防ぐ要として機能する、利根川上流の田中調節池再整備事業。前職のジェーエステックで培った技術を生かし、プロジェクトに挑んだ磯野さんに、業務における新たな挑戦と、キャリア社員としての活躍について、話をお聞きしました。

磯野 早紀子

関東支社 河川砂防・港湾部 技術主査
埼玉大学卒

2016年にジェーエステックへ入社。2019年にオリエンタルコンサルタンツへ転籍。転籍後は、河川管理施設の維持管理に関する業務を担う。現在は、前職の維持管理に関する業務の経験を生かし、河川の樋門、堤防などの構造物設計の業務に従事。

利根川上流に位置する田中調節池は、豪雨の際、一時的に雨水を貯め、下流の洪水被害を防ぐ重要な役割を担っている。昨今の水害頻発化・激甚化に対応するため、調節池の貯水率向上を目的とした再整備事業が進められた。この案件で磯野は、初めての大規模な業務の管理技術者に挑戦したという。

「調節池の再整備では、堤防の断面設計や樋門の配置検討、工事用道路設計など、多岐にわたる検討に取り組みました。加えて、土砂運搬に伴う交通影響を解析し、一般交通に支障が出ないことも確認しています。発注者や関係機関との調整や、回答期限を含めた工程管理、他部署との連携など、初めて経験する課題も多くありましたが、密なコミュニケーションを意識し、できる限り齟齬のないやり取りを心がけました。その結果、局長表彰という形で評価いただくことができました」

〇〇に入社する以前、磯野は子会社であるジェーエステックで主に河川設計を担当。前職では協力会社を



田中調節池の様子。普段は農地として利用されているため、再整備にあたっては関係者との合意形成にも苦労したという。

ほとんど使わず、解析や図面作成、数量計算まで社内で完結させていたという。本業務で、磯野が培ったこれらの技術が生かされている。

「田中調節池の案件では、周囲堤の再整備としての新規盛土に対する軟弱地盤の解析を社内で行っていました。盛土量や地盤条件は設計区間全体で一定ではないため、どの断面で解析を行うか、どの箇所の安全性を基準に周囲堤構造を決めるかを慎重に検討する必要があります。そこで、三次元地盤モデルを作成し、地盤条件を把握したうえで、解析モデルを設定し、安全性を確保できる構造を決定しました。こうした解析や図面作成を社内で行うことで、業務の効率化や委託費の削減につながったと思います。所属する関東水工チームでは、内製化による要素技術力の向上を図っています。自分の経験やスキルが、その取組みを加速させる一助となれば嬉しいです」

転職直後は、磯野も不安を感じていた。しかし、中途入社先輩が部長などの要職で活躍する姿を目にし、努力次第で成果を出せると確信したという。

「今後は技術力やマネジメント力をさらに高め、対応できる業務範囲を広げること、チームや会社全体に貢献していきたいです。〇〇には、大規模案件に挑戦できる環境と、そのためのスキルを育成する体制が整っています。それは、中途入社であっても変わりません」

今度は自分が、後に続く中途社員のモデルケースになれば嬉しいと、磯野は語った。

3D都市モデル「PLATEAU」で見せる、未来の可能性

OCは日本橋地区の整備推進業務で、3D都市モデル「PLATEAU」を活用。そこで得られた知見をもとに、技術のさらなる活用を目指し重点化事業を推進しています。PLATEAUを使うことで実現できる新しい価値について、成川さんに話を伺いました。

成川 健斗

関東支社 都市政策・デザイン部 技術主査
法政大学卒

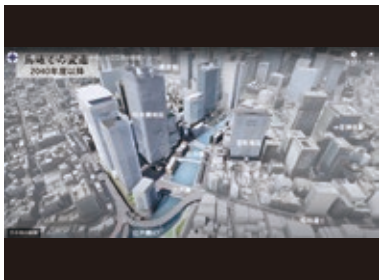
2017年に入社後、学生時代からの専門分野である景観デザインの立場で公園・街路・河川・橋梁などの計画、設計に従事。2020年から4年間は社外活動として土木学会デザイン賞の運営幹事を経験。昨年、PLATEAUコンソーシアムに会社を代表して参画し、DXの推進にも挑戦中。



2022年、OCは日本橋地区の整備推進業務を受注した。本案件では、地域の関係事業者や地域団体などとの協議会にて、街の現状や将来像を直感的に把握してもらうべく、3D都市モデルを活用している。ここで用いられたのが、国土交通省が提供するオープンデータ形式の3D都市モデル「PLATEAU」である。全国の都市の建物や道路、地形などのデータが揃っており、ゼロからモデルを作る必要がないため、効率的かつ多用途に使えるのが特徴だ。

「中央区の発注業務では、日本橋川沿いの再開発や首都高速道路の地下化事業に合わせて、水辺空間の整備を検討しています。その際、住民や関係者の方に理解してもらいやすいよう、PLATEAUの活用を提案しました。協議会には専門知識のない方や、高齢の方もいらつしやいます。より多くの方に直感的に理解してもらえよう、完成後の景観やにぎわいのイメージをモデル上で示しました」

OCでは、本案件で得た知見をもとに重点化プロジェクトを立ち上げ、PLATEAUを他案件でも広く活



中央区HPにて、PLATEAUモデルの活用動画を公開。関係事業者に加え、一般の方にも日本橋川の整備イメージを共有した。

用できるよう検討を進めている。「PLATEAUの活用を3つの視点で検討しています。まず、直感的に操作できるインターフェースにより、円滑な合意形成に活用できること。次に、三次元測位データと連携してさまざまなシミュレーションに利用できること。そして、ソニー社のMaprayを活用したデジタルツイン基盤により、街の状況をデジタル上で再現し、複数のステークホルダー同士が共通のプラットフォームを用いて、多様な検討・分析や可視化ができることです。Maprayは3D地図や位置情報をクラウド上で扱うことができ、PLATEAUのモデルと組み合わせることで、街の整備計画などをより現実にも似せた形で検討できます。これらの取り組みを進め、都市計画や防災、観光促進など、幅広い分野で活用できる基盤の構築を目指します」

従来の業務にDXの視点を取り入れることで、提案は格段に広がる。本分野はまだ発展途上であり、試行錯誤の段階ではあるが、確実に前進しているという。

「協議会で将来イメージを見せるためだけに活用するのではなく、多面的に利用できるのが3D都市モデルの特徴です。3D都市モデルは整備に大きな費用がかかる一方、それを生かした収益性のある運用例は社会的にもほとんど見られません。この課題を解決できれば、技術は一層普及し、より使いやすくなるはずです」

技術を広く活用し、OC社内のみならず、社会へ新たな価値を提供していくために、成川の挑戦は続く。

世界に広がる日本の技術 注目のグローバルサウス事業

日本の技術を生かし、国内の産業活性化と現地の課題解決を目指す動きが、グローバルサウスを中心に活発になっています。民間企業と力を合わせて進める、今注目の取組みについて、藤井さんに話を伺いました。

藤井 雅規

海外事業部 副主幹
法政大学卒

入社後、民間企業の海外展開支援にかかる業務として、主にJICAや環境省等の業務に従事。環境省の都市間連携事業では、日本の自治体と海外のパートナー都市の連携による脱炭素に向けた取組みを推進しており、事業を通して世の中に貢献することを目指している。

近年、産業の脆弱性や保健・食料・防災などの課題を抱えるグローバルサウスに注目が集まっている。藤井は、環太平洋火山帯に位置し地震リスクが高いペルーで、民間企業の技術やノウハウを生かし、現地の課題を解決すると同時に、国内産業の活性化も目指すJICA民間連携事業に取り組んだ。

「ペルーの案件では、現地の地球物理庁と連携し、日本で標準的に運用されている緊急地震速報システムの導入を目指しています。地震の揺れを感じ取る観測点が日本の半分以下しかない現状をふまえ、まずは新たに観測塔を設置できる場所の調査から着手しました。将来的には、そこで収集したデータを解析し、各人のスマホに速報を届ける体制を整備できるように、NECやレキオソフトと協働で取り組んでいます」

ペルーにおいて緊急地震速報システム導入を検討する中で、関係者との協議を通じ、同様のシステムを近隣諸国にも展開できる可能性が見えてきた。現在は、その第一歩として



現地の既存観測点を視察している様子。観測点が多いほど、地震の発生位置や規模の推定精度が高まり、システムの精度向上につながる。

チリへの横展開を進めている。「横展開を進めるにあたり、各国の制度や文化に合わせた調整が必要です。今まで感じたことのない難しさもありますが、同時に、新たな分野に大きな可能性を感じています」藤井は決して、中南米や地震関連の案件経験が多いわけではなかった。しかし、これまでのJICA民間連携事業での経験や、海外MBAの資格取得を通して培ったスキルがあったからこそ、企業に選んでもらえたのではないかと語る。「海外MBAは、キャリアを止めたくなかったこともあり、OCで勤務を続けながら、オンラインで取得しました。ここで得た学びを最も生かしたのは、民間企業の社長や経営層との会話です。例えばレキオソフトの社長と案件について話をした際も、単なる技術の話にとどまらず、会社としてどう進めていきたいかという考えまで深く議論することができました。現在、グローバルサウスが目されていますが、それはあくまで一つの枠組みに過ぎません。その本質は、日本の技術を現地で活用することにあります。これからも選ばれる続けるコンサルタントであるためには、国内の技術やノウハウを現地に届ける民間企業のことを深く理解し、寄り添い、信頼を積み重ねる姿勢が大切です。伴走者としての意識を、今後も持ち続けていきたいですね」日本の技術を現地の課題解決に活かす取組みは今、着実に広がりつつある。技術と文化の橋渡しを行う藤井の挑戦は、これから新たな展開を迎えるだろう。

キャリアも専門分野もさまざまな社員が、OCの門戸を叩いた理由

本間 本日はお集まりいただきありがとうございます。私は2010年に当社へ新卒入社し、現在は都市政策デザイン部の副次長として、自身のユニットを持ちながら十数人の部下のマネジメントを行っています。本日はそれぞれ経歴の異なる皆さんの視点で、当社の事業や社風、働く上での魅力や課題など、さまざまなお話しいただければと思います。初対面の方も多いので、まずは皆さんの前職と今の業務についてお聞かせください。

平野 前職は国交省の航空局に勤めており、空港施設の維持管理や予算編成から、現場での作業まで幅広い業務に携わっていました。現在は新たな事業の開発を行っています。私が主に携わっているのは、子会社であり農産物の冷凍加工事業を行うオリエンタルアグリの運営と、和歌山県の南紀白浜空港に隣接しているワーケーション施設「Office Cloud9」の運営です。

山下 私は自然豊かな環境で育ったのですが、その中で防災に興味を持ち、大学では斜面災害について研究していました。卒業後は同業の建設コンサルタント会社に就職し、主に砂防を中心とした業務を担当していました。OCへの入社は2024年の6月ですので、転職してちょうど1年と少し経ったような状況です。現在は防災チームに所属し、自治体の防災計画の改定や、災害時における優先業務の評価を支援しています。

山口 私は大学院修了後に照明器具メーカーへ入社し、技術営業として各拠点で営業社員の技術的なサポートや設計事務所などの顧客対応を行っていました。また屋外照明の担当も兼務しており、スポーツ照明・交通照明などに特化した活動もしていました。2021年

のOC入社時は地下構造部へ配属されましたが、その後の部署編成を経て現在は施設設備部として業務に従事しています。今は前職で経験した照明だけでなく、土木施設・建築物に必要な設備の設計を行っています。

本間 次に、OCへ入社された理由や転職のきっかけについてお聞かせいただけますか？

山下 建設コンサルタントとして前職の仕事にもやりがいを感じていましたが、近年、災害が頻発・激甚化している中で、砂防の知識だけでは解決できない複合的な課題に直面する機会が増えていきました。そして、「もう少し専門性の幅を広げ、複合的な課題解決に貢献できる技術者になりたい」と思っていたときにOCの方からお声がけいただき、OCがプロパー・キャリア問わず多様な分野のスペシャリストが活躍している会社であることを知り、思い描く理想のコンサルタント像が実現できるかもしれない。そう思い、入社を決意しました。

山口 私は学生時代に建築を専攻し、特に照明に興味を持って照明器具メーカーに入社しました。前職で照明のプロにはなれたと思うのですが、あくまで「設計のお手伝い」という立場で業務に携わることが多く、「自分が考えたものが実際の構造物になる」という達成感や充足感を十分に感じられませんでした。転職活動では「広く設計に携わることができるか」を重視し、その中でも社会貢献性が高く、構造物から設備まで幅広い設計業務を担うOCを魅力に感じていました。あと、当時の採用サイトにも赴任していた東北の事例が掲載されており、設備でも地域に貢献できることに強く関心を持ちました。そうした経緯からOCへ転職することを決めました。

平野 私は発注者の立場から事業者へと転身しましたが、前職で現場作業に携わる中で、

特に利用者の方と話す事業者の皆さんの知見や熱意に触れ、「かっこいいな」と感じるものが多くありました。そこで私も発注者としてはなく、現場で直接何かを手がけられる仕事がしたいと思ったのが転職の経緯です。また、OCを知ったきっかけは、地域活性化の一環として酒蔵を経営するなど、建設コンサルタントの枠を超えた幅広い事業に挑戦しているという話を聞いたことです。「私もプレイヤーとして新たな事業に挑戦したい」と思い、入社を決めました。

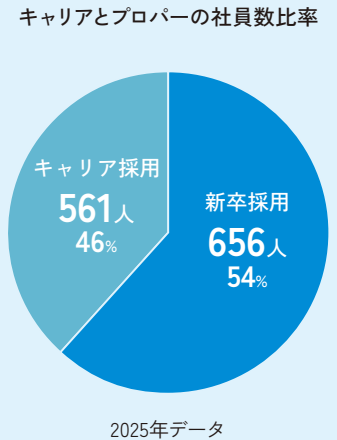
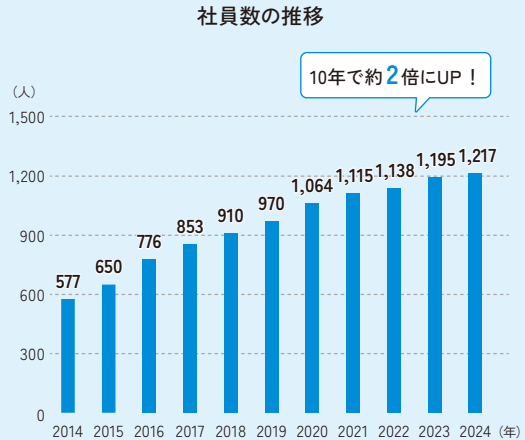
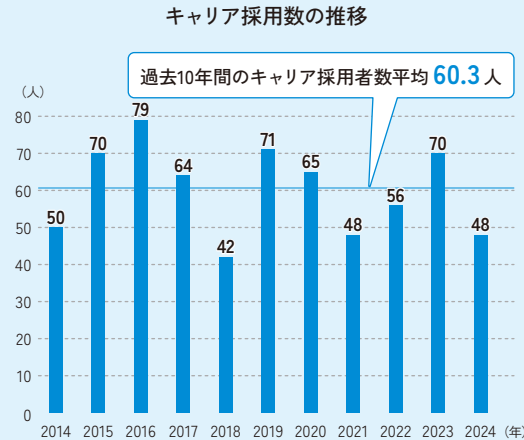
本間 皆さん、当社が幅広い事業を担っている点や、これまでの建設コンサルタントの枠を超えた事業に挑戦している点を魅力に感じていただけたようですね。

社内コミュニケーションが、「こりあえずやってみよう」の精神を支える

本間 実際の入社後、社風や働き方についてギャップを感じたことはありますか？

平野 入社当初は、良い意味で社員同士の距離感が近いことに驚きました。OCは規模の大きい会社ですが、普段の会話や業務の中で役職の上下関係を感じたり、社内での連携が取りにくかったりすることはありません。特に私の所属する室は一般職と幹部職の人数が同じくらいで、上司も私たちの意見に積極的に耳を傾けてくれている印象です。

山下 確かに、上長の方がフランクに話しかけてくださることは驚きました。そのおかげか、社員の皆さんも年次に関係なく、しっかりと自分の意見を持ち、さらにそれを発信しています。前職は想いを内に秘めるタイプの方が多かったので、OCでは自由闊達な意見交換からアイデアが生まれ、それが組織活性化につながっていることを日々実感しています。



～OCで拓く未来～

キャリア入社組の本音に迫る！

従来の建設コンサルタントの枠を超えた挑戦を続ける当社。
今回はキャリア入社3名と新卒入社1名にご参加いただき、
他社との違いや仕事のやりがい、外部目線から見たOCの課題など、
各テーマを本音で語っていただきました。



業務の川上から川下まで携わることへのやりがい

前職：官公庁

平野 誠哉

事業推進本部 社会・地域イノベーション推進室 技術主査
信州大学卒

前職は国土交通省航空局に勤務し、空港基本施設の維持管理から予算編成まで幅広い業務に携わる。2023年のOC入社後は、オリエンタルアグリの事業立ち上げなどを担当。



前職の経験から防災分野を担うコンサルタントに

前職：建設コンサルタント

山下 久美子

関東支社 河川砂防・港湾部 技術主査
筑波大学大学院了

新卒で建設コンサルタント会社に就職後、主に砂防系の業務に従事。2024年OCに入社し、現在は防災チームとして自治体の防災計画策定や水防災に関する業務に携わる。



自分の設計が実際の構造物になる達成感

前職：照明器具メーカー

山口 翔平

関東支社 施設設備部 技術主査
横浜国立大学大学院了

照明器具メーカーの技術営業として5年間勤務し、2021年にOC入社。大学の専攻や前職の経験を生かし、道路・河川・建築などの幅広い市場の電気通信設備設計に携わる。



マネジメント層として風通しの良い職場づくりを

新卒入社

本間 雄太

関東支社 都市政策・デザイン部 副次長
中部大学卒

2010年の入社後、交通グループに配属。建設コンサルタント協会本部の「若手の会」副代表などを経験し、現在は交通・拠点ユニットのリーダーを務める。

平野 現場で働いていると、マネジメント層の皆さんの取組みが、このような社風や雰囲気維持に大きく貢献していると感じます。本間さんご自身が、部下をマネジメントする上で意識されていることはありますか。

本間 当社では管理職のマネジメント研修などにも力を入れています。私自身がマネジメントする上で最も重要視しているのは「心理的安全性の確保」です。多様なバックグラウンドを持つ社員の意見を聞くだけでなく、わくわくするアイデアには「とりあえずやってみよう」と後押しすることで、結果として社員の帰属意識も向上すると考えています。また、心理的安全性を確保することにより、結婚・出産など社員のライフステージが変わった際も、一人ひとりの希望を聞いた上でのサポートが実現できています。

山口 私は入社後に3か月ほど育児を取得しましたが、上司や同僚にフォローしていただいたおかげで、工程に影響を与えず業務に復帰することができました。社員それぞれの働き方が異なる中、会社や上司が希望を実現してくれたことに感謝しています。

平野 ライフワークバランスに関して、さまざまな制度を用意してくれるのは働き手にとっても嬉しいですね。私も子どもが1人いますが、出張の多い業務に携わった際も、フレックス制度を使うことで現場での業務と育児を両立することができました。また、男性の育児取得や制度利用に対する反応は業種や企業によってさまざまですが、OCでは上司やメンバーの皆さんの理解が深く、協力的なことがとてもありがたいです。

各プロジェクトを進める上で必要なのは、虫の目、鳥の目、魚の目

本間 皆さんが担当された業務の中で、特に

思う点があれば、ぜひ率直にお聞かせください。

山口 部署間のやりとりに関しては、前職と比べると少ない気がしています。メーカーは営業から技術までチームになって納入しますが、コンサルは各分野の専門性がかなり強く、個人稼働的な雰囲気を感じることもあります。とはいえ、当社は総合コンサルタントであり、土木や建築、設備が連携することで新たなシナジーが生み出されるはず。この座談会のように、各部署の横串を刺せるような施策を社内で開催していきたいです。

平野 私は業務に取り組む中で、内製化すべ



印象に残っていることについてお聞かせください。

山下 私が最もやりがいを感じたのは、信濃川河川事務所から発注を受けた流域治水の検討業務です。水害リスクをわかりやすく伝えることを目的に、私は3D都市モデル上に浸水域や浸水深などを表示するシステムの開発に携わりました。防災分野の業務はすべてが初めてで、自分が役に立てるか最初は不安でした。しかし、チームメンバーの皆さんや協力会社の方々と一致団結することで、水害に対して危機意識を持っていただけのシステムを構築することができました。結果として、この業務で事務所長表彰をいただいたこともあり、OCで働く上での大きな自信につながりました。技術分野こそ違いますが、協力会社との調整や報連相の徹底など、前職で培ったコミュニケーション能力はこの案件でも大いに役立ったと感じています。

き部分と、外注すべき部分を精査していきたいです。もちろん人員の問題はありますが、現在携わっている業務でも、社内で一気通貫した方が効率的に進められると感じる場面があります。こうした課題を解決することは、結果として顧客満足にもつながると思います。

本間 そうですね。私自身もキャリア採用の皆さんの方が、内製化への意識が高いという印象があります。例えば、過去に担当した交通量調査においても、私は「安い調査会社に委託できている」という認識を持っていましたが、他のコンサル会社から転職してきたメンバーが、「みんながカウンターを持って現場に行くという方法は考えられませんか？」とアイデアを出してくれて、内製化の意識が薄かったことを認識したエピソードがありました。また、業務を内製化することで、発注者への細かな説明や質問への回答も社員自身がその場で行えます。こうしたメリットを考えると、コストとトレードオフさせても一定の内製化が必要だと感じます。

山下 細かな話にはなりますが、業務効率化という観点では、形骸化している会議やメールがまだあると感じます。既存の仕組みやこれまで当たり前に行っていた部分を見直すことで、社員一人ひとりが自身の業務に集中できる環境が整備できると思います。

OCの成長をさらに加速させるのは、社員一人ひとりの好奇心と情熱

本間 皆さんが今後OCで挑戦していきたいことや、未来に対する展望をお聞かせください。

山下 入社して1年が経ちましたが、周囲にはさまざまな経験を積んだ方がたくさんいらっしゃいます。私自身まずは「良わず嫌い」

本間 平野さんはコンサル業務とは少し違う分野の事業に携わっていらっしゃると思いますが、印象に残っていることはありますか？

平野 2025年の2月にオリエンタルアグリの冷凍加工工場が稼働を開始したのですが、計画段階から竣工まで関わったことが印象深いです。工場の建設にあたっては、経産省の補助金申請や予算管理、施工管理までの一連を担当しました。現場が鹿児島県の郊外だったこともあり、2週間に1度訪問するためのスケジュール管理は大変でしたが、前職で補助金の審査業務に携わっていた経験が生きた場面も多く、スムーズに業務を進めることができましたと思います。およそ1年かけて工場が完成していく様子を見届けることができたのも、現場の仕事ならではの魅力だと感じました。

本間 ゼロから事業を立ち上げるというのは社会・地域イノベーション推進室にいるからこそできる貴重な経験ですよね。山口さんはいかがですか？

山口 私は初めて国交省の管理技術者を務めた、岩手県に新設する自専道の道路管理用設備基本設計業務が印象に残っています。それまでの業務では設置設備がある程度決まっている詳細設計に携わる場面が多かったのですが、今回は管理技術者として、ゼロベースから関連法規を調べ、必要な設備を検討する工程を経験することができました。すべて自分で判断・采配できる自由さと、最終的に責任を取らなければならない重責を感じつつも、設計に関しては建築・土木・設備の知識をフルに活用でき、業務に対する知見もさらに深めることができました。

本間 ありがとうございます。これは私個人として感じていることですが、キャリア採用の方は基本的に2パターンに分かれているような気がします。まず一つが、経営やマネジメントに関するスキルを磨きたい方。もう一

つが、専門分野に関するスキルを突き詰めた方。当社は新卒・キャリア採用を問わず、面談の場で希望の分野や取り組みたい業務を聞き、最大限のパフォーマンスを発揮できるような人員配置を行っています。皆さんはご自身がどのタイプだと思われますか。

山口 私は自分で手を動かしながら作業することが好きですね。さらに細かい話で言うと、報告書を書いている時間が一番楽しいです。最初の打合せから納品までの一連の流れを、物語のようにまとめ、分厚い報告書をつくり上げることに達成感があります。こうして自分の技術を可視化した報告書が、ゆくゆくは他の人の業務にも役立つといいなと思います。

平野 私は仕事柄、経営やマネジメントに対する関心が強いです。現在も公園のリニューアルに関する業務に携わっていますが、構想段階から完成するところまで立ち会えるのは嬉しいですし、大きなやりがいを感じます。

山下 私は今、さまざまな業務を経験しながら自分のタイプを見極めている段階です。話が少し逸れてしまいかもしませんが、特に防災の分野では「全体を俯瞰する力」と「細部までの気配り力」を両立させる必要があると考えています。その上で、自分の中でつくったロジックが、発注者やその先にいる住民の方々にうまく伝わると嬉しいですね。今後も両方のスキルを磨きながら、自身がより注力したいものを探し出せればと思います。

外部視点から業務の無駄を見直し、顧客満足につなげていく

本間 皆さんのお話を聞いていると、当社には多種多様な業務があり、それに伴うやりがいも多岐にわたることがよくわかります。一方、業務を行う上で今後さらに改善したいと

いう好奇心や執着心を持った方と一緒に仕事をしたいです。たとえ新しい分野や業種への転職であっても、これまでの経験は決して無駄にはなりません。その分野への興味と好奇心を大事にして、就職・転職後もより一層熱中できる仕事を見つけれられることを願っています。

山下 同業他社からの転職後、新たな分野の仕事に携わっていますが、この1年で過去の経験や経験が生きた場面がたくさんありました。この会社には、情熱とやりがいを持った方がたくさんいらっしゃいます。私自身これからも、防災分野の知見を深め、技術者として幅広い業務に携わりたいと考えています。皆さんも自分の気持ちに誠実に、キャリアを積み重ねていただければと思います。

― 本日はありがとうございます。 ―





はたらく社員の“笑顔”

はたらく社員の“笑顔”の第8弾をお届けします。
全国の仕事の様子をセレクト。それでは、一挙公開!!

✎ 技術士試験に初回受験で合格
資質能力の向上でより良い成果へ

**入社3年目の挑戦
技術士取得支援制度も活用**

OCは若手の技術士資格取得をサポートしており、そのため普段の業務でも若手がさまざまな仕事を任せてもらえる環境があります。1年目から自分で調べたり考えたり、作成した資料について発注者に説明したり。そういった小さな努力や経験の積み重ねが、3年目での資格取得につながったと感じます。

試験対策にあたっては、会社の技術士取得支援制度を最大限に活用しました。私は社内の「重点受験者」として、筆記試験対策の外部講義を業務時間内で受講。月に1～2回の講義で、論文の書き方や重要な用語を学びました。社内の模擬試験では、自身の解答について外部講師からフィードバックを受けることができます。また、口頭試験の対策では、社内の模擬面接官による面接指導を実施していただきました。

技術士を取得してからは、技術士に求められるコンピテンシー（資質能力）を思い返ししながら、より良い成果を出すことを意識しています。打合せて発注者に説明する機会が増える中で、自分から上長に検討の方針を提案することも増えました。これからも目の前の仕事に真摯に取り組み、次のステップである管理技術者を目指して、小さな努力を積み重ねていきます。

倉本 菜摘
九州支社 総合計画部 技師
長崎大学大学院了

2022年に入社して以来、九州支社総合計画部（環境分野）に所属。主に道路事業の環境影響評価業務に従事。法律に基づく配慮書・方法書の作成や関係機関協議のほか、景観、人と自然との触れ合いの活動の場の調査、植物の保全対策などを担当している。



✎ 謎解きのように仕事を楽しむ
新入社員とコーチャー

**伝えるのは「答え」ではなく
次の業務に生きる「考え方」**

支社で配属されたのは、橋梁の補修設計を行う保全チーム。新設の仕事を想像していたため、最初はギャップを感じたものの、好奇心旺盛な性格から、保全業務に対してもすぐに意欲が湧きました。そんな私をコーチャーとして支えてくれたのが小住さんです。小住さんは私の疑問に対し、答えではなく、答えを導くプロセスを教えてくださいました。特に、土地の特性を判断するために地形図を読み解くという方法は、今でもさまざまな業務で役立っています。保全はマニュアル通りにいかないことが多いからこそ、考える面白さを日々感じています。（千葉）

保全チームに配属された新入社員は、しばしば思い描いていた仕事とのギャップを感じるものです。そこで目標を見失うことがないよう、業務の楽しさを伝えたいと考えました。橋が壊れるのには理由があります。補修設計は、さまざまなヒントからその理由を解き明かす仕事。いわば謎解きゲームのようなものです。だからこそ、答えを教えてしまっては面白みがありません。私が千葉さんに教えたのは、課題の全体像やヒントの集め方です。今後も楽しむことを大切に、自身の成長を喜んでほしいと思います。（小住）

左) 千葉 皓太
東北支社 構造部 技師
日本大学大学院了
2024年にOCへ入社。主に橋梁補修設計の保全業務に従事。

右) 小住 友哉
東北支社 構造部 副主幹
古川工業高等学校卒
OC協力会社勤務を経て、2012年にOCへ入社。主に橋梁定期点検および補修設計の保全業務に従事。



✎ 建設コンサルタント業務研究発表会にて
優秀賞を受賞

**毎年の論文投稿を継続し
「わかりやすく伝える力」を向上**

OCでは論文投稿や発表を積極的に行っており、若手にも挑戦の機会があります。私は文章で「わかりやすく伝えること」に苦手意識があったため、それを克服するため入社以来毎年1本以上の論文執筆に挑戦してきました。その成果として、この度「令和6年度 建設コンサルタント業務研究発表会」において優秀賞を受賞しました。

研究テーマは、高速道路休憩施設の混雑緩和を目的とした「隊列駐車方式」の有効性検証です。日本では未導入で先行研究もほとんどなく、発注者も手探りの状況でしたが、休憩施設関係の業務に携わった経験を生かし、提案と議論を重ねて検討を進めました。その結果、通常の駐車方式と隊列駐車方式を適切に併用することで駐車効率が向上することを確認できました。最後までやり遂げられたのは、コンサルタントとして自らの技術で課題を解決したいという強い思いがあったからです。

業務完了後は成果を外部に発信するため、例年通り論文の推敲や発表練習を重ね、本番に臨みました。継続的な取り組みにより「わかりやすく伝える力」が養われ、今回の受賞につながったと感じています。今後もこの挑戦を続け、さらなるスキル向上に努めていきたいです。

宮崎 耕平
中部支社 交通政策部 技師
名古屋工業大学大学院了
2020年に入社して以来、交通政策部に業務に従事。高速道路の渋滞対策や休憩施設の利便性向上施策・幹線道路の交通事故対策の検討、道路網や交通結節点の計画など、交通分野に関連する業務を担う。新規性のある業務は、論文発表などを通じて外部にも積極的に発信。



✎ 若手中心の取り組みで
エンゲージメントを向上

**業務外交流を活性化し
意思疎通が円滑に**

河川砂防・港湾部では以前から、一部のメンバーに仕事の負担が集中しやすく、業務調整の効率化が課題となっていました。これを解決するためにはまず、組織内の連携を円滑にする必要があります。この役割は部長である私が担うよりも、若手を中心に進めた方が効果的だと考え、石丸さんにエンゲージメント推進役を任せました。石丸さんの働きかけにより、暑気払いや忘年会といった業務外交流が増加した結果、階層間の意思疎通が改善。業務の調整がしやすくなりました。今後は業務そのものの効率化にも取り組みたいと考えています。（土谷）

社内のエンゲージメント貢献表彰において、ありがたいことに、今年で2年連続の受賞となります。1年目の表彰は、実はあまり実感がありませんでした。自分自身ではまだ積極的になりきれず、貢献度が低いと感じていたからです。それを機に、2年目からは表彰者によりふさわしい活動を心がけてきました。現在では、食事会などでの交流が、業務で協力するきっかけになると感じています。今年の受賞は喜びを実感できるものとなりました。取組みから得た学びを、次の推進役となる後輩にも伝えていきます。（石丸）

左) 土谷 安司
九州支社 河川砂防・港湾部長
山口大学大学院了
2009年にOCへ入社。主に九州地域における堤防、水門、樋門などの河川構造物の設計業務に従事。

右) 石丸 雅之
九州支社 河川砂防・港湾部 技師
宮崎大学卒
2024年にOC入社。主に九州地域における漁港・港湾施設の設計、維持管理業務に従事。



外部表彰や資格、組織づくりについて語っていただきました。

OC社員、会社の出来事を語る！

社内行事や研究、注目の取組みや業務など、一つのテーマに絞って出来事を深掘り。一人のOC社員が体験し、感じたことを、その人の言葉や想いそのままに掲載します。

テーマ
インド現地レポート

インド初の新幹線開通に向け、日本の技術をインド人技術者へ

現

在、日本の新幹線方式を採用したインドでは初となる高速鉄道の開通を目指し、建設が着々と進んでいます。私たちの業務は、軌道工事に関する訓練施設の管理・運営となります。

訓練施設では、測量、レールや軌道スラブの敷設といった軌道構造物の施工に対して、熟練した日本人技術者を講師としてインドへ招き、実際に施工現場に立つインド人技術者に対して日本の技術を伝えるべく、教育訓練を実施しています。本業務では、私が今まで携わったことのない「軌道工事」の教育訓練に立ち会うことで、軌道工事の手順や注意事項を知ることができ、新たな学びとなっています。さいごに、訓練施設で日本の技術を学んだインド人技術者が、実際の施工現場で活躍されることを楽しみに思っています。



実習（軌道スラブ施工）風景



授業（座学）の風景

訓練施設で日本の技術を学んだインド人技術者が、実際の施工現場で活躍されることを楽しみに思っています。

文・社員／上見 正人

海外事業部 兼（株）オリエンタルコンサルタンツ グローバル出向

テーマ
流域治水オフィシャルサポーター認定

私たちはハード・ソフトの両面から被害を「最小化」にして「人命を守る」仕事をしています！

近

年の豪雨や台風は、従来の想定を超える規模になってきています。これまでの「ハード整備のみの対策」には限界があり、流域全体で災害を防ぐことが必要です。また、災害に対しては国や自治体だけでなく、住民、企業、土地所有者などの協力が重要となっています。流域治水事業は、「流域に住むすべての人が協力して災害を減らす」という発想のもと、事業が展開されています。流域管理・保全事業部は、この流域治水事業に関わる仕事をしています。これまでの活動実績が認められ、この度、オリエンタルコンサルタンツが、国土交通省から「流域治水オフィシャルサポーター」として認定を受けました。今後も流域治水を社会全体で進める担い手として、流域全体での防災・減災を進める実行者として邁進します！



流域治水のロゴ

文・社員／岸田 こそえ

関東支社 河川砂防港湾部長 兼 流域管理・保全事業部 副事業部長 兼 海外事業部 分野支社リーダー

テーマ
Office Cloud 9の運営を通して

海外からも注目されているワーケーション白浜の魅力・可能性をもっと世界に発信

O

Office Cloud 9には、日本国内にとどまらず、多くの海外（特に東南アジア）からの視察依頼があります。6月には、JICAプロジェクトの一環でフィリピン・ミンダナオ島から16名のお客さまをお迎えし、白浜のワーケーションの取組みを説明し、熱心に耳を傾けてくださいました。このほか、ここ1年では香港や韓国の企業経営者などの視察もあり、絶景のロケーションやコストの低さ（オフィス・人件費）に驚かれる場面も。白浜の「当たり前」が、海外から見ると大きな魅力。「地域の可能性は、もっと世界に広げられる」と実感を得られています。Office Cloud 9は、これからも国内外の方々とつながりを大切に、新しい価値を生み出していきます。



フィリピンからの視察②



フィリピンからの視察①

文・社員／小林 昌典

事業推進本部 社会・地域イノベーション推進室 副室長 兼 Office Cloud 9 管理所長

テーマ
クラブ活動をおして得られたもの（関西支社野球部）

野球を通じて、支社＋全社的に縦・横のつながりを拡大！

関

西では阪神タイガースが2年ぶりの優勝を決め、万博に負けなくらい盛り上がっています。関西支社では、野球部活動を毎月開催しています。さまざまな部署から幅広い年代の方に参加いただき活動しています。この活動を通して、業務だけでは交流することがなかったであろう支社内の縦横のつながりが広がり、業務での相談や休憩時間の雑談などができる人が増え、会社の居心地が良くなりました！また、建コン協関西支部の野球大会にも参加しています。全社の野球部に声をかけ、全社一丸となって優勝目指して戦っています。大会をおして他支社の人とのつながりができ、支社を超えた業務の相談などがしやすくなりました。社会人になり、業務以外で一丸となつて何かに打ち込むことが少なくなつたので、この活動は違った刺激が得られる機会になっています。



令和7年度野球大会の集合写真



ベンチで和気あいあいと

文・社員／久保山 凌

関西支社 交通政策部

テーマ
健康管理について

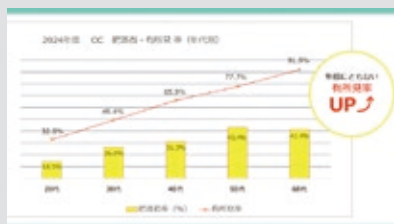
健康はかけがえのないもの
健康診断は疾病予防への第一歩

O

Cの健康診断受診率は毎年上昇していましたが、あと一歩のところまで「受診率100%」にはなりません。しかし、支社総務の方が適宜健診の手配をされたことや、健康管理室からも本人へ粘り強く受診勧奨を続けたことで、2024年度はついに健康診断「受診率100%」を達成できました。健診は「受けたら終わり」ではなく、自身自身の健康状態を知ること、病気の予防や早期発見、生活習慣の見直しに役立ちます。私自身も健康管理室の事務として働くうちに「予防」の大事さを改めて感じ、できる範囲で生活リズムを整えたり、運動を取り入れたりしています。健康はかけがえのないものです。健康診断に限らず社員の健康をサポートできるよう、今後も健康管理室の業務に努めたいと思います。



健診受診率推移



健診集計（年代別有所見率）

テーマ
「リフレッシュ休暇（勤続10年）」について

リフレッシュ休暇を利用して、双子の初めての誕生日を家族で祝う。

入

社してから10年が経過し、リフレッシュ休暇の取得権利が付与されました。これは、特別休暇5日に加え、有給休暇と合わせて10日間休暇を取得できる制度です。偶然にも子どもが生まれたタイミングであったため、育休と合わせてリフレッシュ休暇を取得しました。育休は、子どもの誕生日前日までが対象のため、リフレッシュ休暇は誕生日以降の休暇に活用し、一日一緒に過ごすことができました。子どもが生まれてから初めて迎える誕生日。スマッシュケーキをつくってお祝いしました。双子ということもあり、大変なことも多いですが、2人の笑顔に癒されています。まさにリフレッシュ休暇となり、2人の笑顔を守るためにも、より一層業務に励みたいと思う機会になりました。



ケーキでぐちゃぐちゃになる双子

文・社員／土谷 亮介

関西支社 総合計画部

News&Topics

社内施策

24/10/03 (Thu)

公式SNS (Instagram、X) を開始

研修など

24/10/03 (Thu)

2025年度新卒採用内定式および内定者研修を開催

受賞

24/10/17 (Thu)

体験型研修宿泊施設「そらすな」グッドデザイン賞
2024年度受賞

研修など

24/10/28 (Mon)

管理職候補の中堅社員を対象とした研修を開催

研修など

24/11/19 (Tue)

健康管理に関する研修の開催～セルフケアおよびライ
ンケアについて～

受賞

24/12/16 (Mon)

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト（馬場川遊
歩道公園）「日本空間デザイン賞2024」「令和6年度
土地活用モデル大賞」「2024年度 グッドデザイン
賞」「ウッドデザイン賞2024」受賞

受賞

24/12/17 (Tue)

「土木学会デザイン賞 2024 優秀賞」をダブル受賞
「有明筑後川大橋・有明早津江川大橋」および「ハッ
場ダム」

受賞

24/12/18 (Wed)

日建連表彰2024 第5回土木賞を受賞 阪神高速3
号神戸線床版更新工事

社内施策

25/01/06 (Mon)

第68期 12月創立記念表彰

受賞

25/01/07 (Tue)

東京都の「雨水しみこみプロジェクト」に対し、優れ
た取組みをした事業者を表彰、当社が認定アンバサ
ダーとして選定

研修など

25/02/04 (Tue)

若手社員を対象としたプロジェクト管理研修（管理
技術者編）を開催

受賞

25/02/27 (Thu)

第4回 中部DX大賞 敢闘賞を受賞

研修など

25/03/11 (Tue)

健康経営優良法人2025に認定

研修など

25/04/01 (Tue)

2025年度入社式を開催

社内施策

25/04/02 (Wed)

68期4月表彰

受賞

25/04/03 (Thu)

ZEBプランナーの認定取得

受賞

25/04/04 (Fri)

紀州材アクティブユーザー表彰受賞（Office Cloud
9）

研修など

25/04/16 (Wed)

2025年度新入社員研修開催

受賞

25/04/23 (Wed)

ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）
2025にて2案件受賞（グランプリ、優秀賞）

受賞

25/05/23 (Fri)

「流域治水オフィシャルサポーター」として認定

研修など

25/06/27 (Fri)

2年目研修を開催

研修など

25/08/01 (Fri)

3年目研修を開催

研修など

25/08/08 (Fri)

Smile-3Sフェアを開催

社内施策

24/10/03 (Thu)

公式SNS (Instagram、X) を開始

2024年10月、公式SNSを開設しました。求職者をはじめとする皆さまに向け
て、リクルート情報や実績紹介などを投稿しています。

Instagram 公式アカウント



(アカウント名:oriconsul_official)

X 公式アカウント



(アカウント名:oricon_official)

受賞

25/02/27 (Thu)

第4回 中部DX大賞 敢闘賞を受賞

「令和5年度 三重河川DX検討業務」で検
討した「3D河川管内図とワンコイン浸水
センサの活用」の取り組みについて、国
土交通省が主催する「第4回 中部DX大
賞 敢闘賞」を受賞しました。この取組み
は、三重河川国道事務所が管理する一級
河川雲出川においてワンコイン浸水セン
サを活用し、浸水情報をリアルタイムで
把握できるようにしたものです。



表彰式の様子(写真中央:管理技術者を務
めた大藤)

受賞

24/12/16 (Mon)

馬場川通りアーバンデザインプロジェクト（馬場川遊歩道公園）「日本空間デザイン賞 2024」
「令和6年度土地活用モデル大賞」「2024年度 グッドデザイン賞」「ウッドデザイン賞2024」受賞

前橋市の馬場川通りをウォーカブルな空
間に再整備する「馬場川通りアーバンデ
ザインプロジェクト」が、表題の4賞を受
賞。当社は、基本・実施設計と工事監理
支援を担当しました。なお「日本空間デ
ザイン 賞2024」では、「KUKAN OF
THE YEAR」「公共施設・コミュニティ
部門 金賞」「サステナブル空間賞」の3賞
を受賞しています。



馬場川通り整備後の様子

研修など

25/04/01 (Tue)

2025年度入社式を開催

今年度は64名の新入社員を迎え、入社
式を開催しました。野崎社長より「プロ
フェッショナルとは、社会や顧客の期待
に応える価値を提供し、社会貢献し続け
る人材。その基本は “技術力とマネジメ
ント力”。そして、大切にすべきはそれら
の力を駆使して成果を最大化するための
“情熱”だ」とメッセージを送り、新入社員
を激励しました。



入社式の様子

本誌掲載のプロジェクト及び社員へのお問い合わせは、下記までご連絡ください。